

段として広く利用されている。

交通容量

ある道路がどれだけの自動車を通し得るかという、その道路が構造上有している能力。一般には、一つの車線又は道路上の1断面を1時間を通して得る自動車の最大数である「時間交通容量」を指すことが多い。

交通容量は、実務上次の4通りに分類される。

(1) 基本交通容量

道路条件、交通条件が理想的である場合に一つの車線を1時間を通して得る乗用車の最大数

(2) 可能交通容量

実在する道路、交通条件の基で道路上の1断面を通して得る自動車の最大数

(3) 実用交通容量

運転者がある程度自由な速度で追越しができ、混雑感を持たないで走行できる最大の交通量

(4) 設計交通容量

道路を設計する場合に一定水準以上の交通状態を保持できるように設定した交通容量

コンタ

contour。本来の意味は輪郭、外形を示すが、contour lineが地図に示された等高線を意味することから転じて、大気汚染物質濃度の等値線などを示した図を「コンタ図」と称する。

(さ)～(そ)

最終処分場

一般廃棄物及び産業廃棄物を埋立て処分するのに必要な場所及び施設・設備の総体をさす。

産業廃棄物最終処分場には、安定型（廃プラスチック等）、管理型（汚泥等）、しゃ断型（有害物質を含む廃棄物）がある。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃アルカリなど廃棄物の処理及び清掃に関する法律で定められた19種類の廃棄物をいう。これらは、事業者が自ら処理するか、知事の許可を受けた処理業者又は地方公共団体等に処理を委託しなければならない。

産業廃棄物情報管理システム

産業廃棄物処理業者の許可内容や処理実績等に関する情報を迅速かつ効率的に提供するシステム

酸性雨

工場等からのばい煙や自動車排出ガスなどに含まれる硫黄酸化物や窒素酸化物が取り込まれることにより酸性化した雨。通常pH（水質イオン濃度）5.6以下の雨をいう。森林被害等をもたらす、地球規模の環境汚染の一つとして問題となっている。

残土

公共工事等で切土工を行う際に発生する土砂

市街化区域

都市計画法に基づく都市計画区域のうち、市街地として積極的に開発・整備する区域。具体的には、既に市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域をいう。

これは、都市計画区域を都市の発展動向などを勘案し、市街地として積極的に整備する区域（市街化区域）と市街化を抑制する区域（市街化調整区域）とに区分し、この区域区分を基礎として、各種の都市計画を定めるとともに、開発許可制度を併用することによって計画的、段階的な都市の発展を図ろうとするものである。

市街化区域においては、少なくとも用途地域、道路、公園、下水道を定めることとされ、また、開発行為は一定の基準に該当していれば許可される。

市街化調整区域

都市計画法に基づく都市計画区域のうち市街化を抑制すべき区域。市街化調整区域内では、農林漁業用の建物や一定規模以上の計画的開発を除いて開発行為は許可されず、また、原則として用途地域を定めないこととされ、市街化を促進する都市施設は定められないものとされている。

指定文化財

文化財保護法又は愛媛県文化財保護条例で定められた文化財のうち、重要なものとして国又は県が指定したもの

シミュレーション

simulation。模型実験や模擬計算によって、現状又は将来の汚染状況を再現予測し、その原因

を定量的に推定する方法。大気汚染、水質汚濁、地盤沈下等で用いられている。

周波数

電磁波、音波など周期波の毎秒の繰り返し回数。単位はHz（ヘルツ）。

焼却

焼却は最も一般的な廃棄物の中間処理で、最大の減量化と腐敗性有機物の安定化を達成する。対象物の発熱量、物理性、燃焼過程の特性から表のような各種の方式がとられる。各種の廃棄物焼却炉

焼却炉の種類	主な適用
火格子焼却炉	固形物（都市ごみ、木くず、紙くず）
固定層	廃プラスチック、流動性のもの
ロータリーキルン（回転炉）	固形ごみから汚泥まで用途が広い
多段炉	汚泥（特に水分の多いもの）
流動層	汚泥、砕いた固形物、廃プラスチック
噴霧燃焼	廃油、廃液（流動性の高いもの）

水銀

常温で唯一液体の金属元素。原子番号80。

ゼロエミッション

ある産業の生産工程から排出される廃棄物を、別の産業の再生原料として利用する廃棄物のない生産システム

(た) ~ (と)

ダイオキシン

ポリ塩化ジベンゾジオキシンの通称であり、これにポリ塩化ジベンゾフランを加えてダイオキシン類として扱うことが多い。

ダイオキシン類は、廃棄物焼却等の過程で生成される有機塩素系化合物であり、その毒性は、発がん性、生殖毒性、催奇形性など多岐にわたる。また、ダイオキシン類は、分解されにくいいため、環境中に微量であるが広く存在するといわれている。

地球温暖化

地球規模の環境問題の一つで、二酸化炭素等により地球の気温が上昇する現象をいう。

地球の表面は、太陽からの日光を受けとめて暖まり、その熱を大気を通じて宇宙空間へ放出していることから熱の均衡がとれ、地表の温度は一定に保たれているが、大気中の二酸化炭素は、この熱を吸収する性質がある。こうした働きをする気体は、その他にメタン、フロン等がある。

このまま二酸化炭素等が増加すると、21世紀末までには平均気温が現在より約2℃上昇すると予測されており、こうした急激な温度上昇は、海面上昇等のさまざまな異変を引き起こすといわれている。

地球環境問題

被害、影響が一国内にとどまらず、国境を越え、ひいては地球規模にまで広がる環境問題。我が国のような先進国も含めた国際的な取組が必要とされる環境問題のことで、具体的には次のようなことがらが問題となっている。

- | | | |
|-------------|---------|-------------|
| ①オゾン層の破壊 | ②地球の温暖化 | ③酸性雨 |
| ④有害廃棄物の越境移動 | ⑤海洋汚染 | ⑥野生生物の種の減少 |
| ⑦熱帯林の減少 | ⑧砂漠化 | ⑨開発途上国の公害問題 |

窒素

大気の約8割を占める液体元素。原子番号7。

無色・無味・無臭で、水に溶けにくく、常温では不活性。高温で多くの元素と化合する。

窒素が酸化された窒素酸化物は生物に有害であり、大気汚染に係る環境基準が設定されている。

また、水中に溶け込んだ窒素化合物は植物プランクトンは必要とする栄養塩となる。

中間処理

最終処分に先立ち、廃棄物の減量化、安定化、無害化などを目的に行われる焼却、破碎、選別脱水などの人為的操作のことをいう。汚泥の脱水、廃酸・廃アルカリの中和、コンクリート固形化等の処理がある。

TEQ（毒性等量）

Toxic Equivalantsの略。

ダイオキシン類は多くの異性体を持ち、それぞれ毒性の強さが異なる。異性体の中でも最も毒